



Walk with Children

めぐろ



せいび

173号
2021年10月

互いに愛し合うことのほかに、誰に対してもどんな負い目もあってはなりません。

他人を愛する者は、律法を完全に果たしているのです。

(ローマ人への手紙 13章8節)

校長 シスター 小島 理恵

10月、ようやく学校も通常の生活に戻ります。コロナウイルス感染症が完全に収束したわけではない中での登校再開ですので、これまで通り、感染防止には十分配慮しながら子ども達の安全を守ってまいります。

さて、9月下旬の分散登校期間中、一人の子どもが、「先生、今日学校に来られて、私本当に嬉しい！」と満面の笑みで伝えてくれました。クラスの友達や先生と会えること、また、みんなと同じ空間で一緒に勉強ができることが、子ども達にとっては、他にとって代わることのできないほどの喜びであり、この日を待ちに待っていたことがうかがえました。子ども達を迎える教職員も、静まり返った校舎に子ども達の元気な明るい声が響いているのを楽しんでいます。

今後も、子ども達と“共にいる”ことを大事にしながら教育活動を展開してまいります。

コンネッショナー
Connessione

～つながり～

「Connessione」とは、イタリア語で「つながり」を意味する言葉です。そこで、ここではキリスト教とのつながりを大切にするための豆知識を紹介していきます。

お詫び：先月号でお伝えしたドン・ボスコが育った家を「ガゼッタ」と明記しておりましたが、正しくは「カゼッタ」です。お詫びして、訂正いたします。

10月はロザリオの月です。今月はロザリオの意味について学びます。



「ロザリオのお祈り」は、ロザリオの玉を繰り返しながら、主の祈り、アヴェ・マリアの祈りを繰り返し唱えていき、「心の平和」「世界の平和」を願います。

さて、「ロザリオ」とはどのような意味なのでしょう。「ロザリオ」とは「バラの花冠」が語源と言われています。また、12～13世紀、マリア像をバラの花冠で飾る習慣があったことも由来とされています。本校でも、1週間に1度アヴェ・マリアの祈りを全校児童で心を合わせて行うことで、マリア様への取り次ぎを願います。



『ロザリオ 神のいつくしみの神秘』（ドンボスコ社）参照

音楽科

画面越しに「これから音楽の授業を始めます。」と歌で挨拶をすると、マスクを外したにこにこ笑顔や大きな口を開けての「お願いしまあす。」のうれしい挨拶。そして聖歌を心をこめて歌いました。高学年には、2小節ずつ交代して歌ってもらうと上手にマイクのオン・オフをしながら1曲が完成し、離れていても音と心のつながりを感じることができました。手話やハンドサインもリズムに乗っておもいきり表現している姿も多くみられました。オンライン授業ならではの可能になった音楽の学びを発見し、貴重な経験をすることができました。



家庭科

子ども達が少しでも楽しく学習に取り組めるように動画を共有する時間や対面でやり取りする時間を設けるなど、授業が単調にならないように工夫しました。味噌の学習の際には家で使っている味噌を実際に持ってきて見せてくれる子どももおり、オンラインならではのだと感じました。また、家庭にいたる時間が長い中で学習したみそ汁づくりに取り組んでくれた子ども達もいて、家庭科の学びをご家庭で共有していただけたことを嬉しく感じました。



体育科

授業開始時間前から画面の中には子どもたちの顔が並び、心待ちにしている様子がうかがえました。画面越しではありますが、子どもたちのマスクを外した本来の顔を見て、大変嬉しくなりました。室内の限られた空間で満足する体育をすることは難しいことでしたが、今まで行っていなかったラジオ体操の習得や、タオルを使った運動を行うことにより、子どもたちの小さいながらも「できた!」を味わわせることができたと思います。



新任の先生（英語科）より

初めまして。“Nice to meet you.” 特にお子様とお会いできるのを楽しみにしておりました。アメリカ合衆国のミシガン州で生まれ育った私は、中学生の時に初めて来日しました。まずは北海道を訪ね、ホームステイプログラムに参加しました。その当時心に残った印象は、今も同じです。日本は四季があり緑が多い国です。私の出身地に似ています。ですから、日本は暮らしやすいです。これから涼しい秋がやってきます。子どもたちと外でたくさん走ったり遊んだりすることを楽しみにしています。何卒よろしくお願い申し上げます！“Thank you!”



林家木久蔵さんをおむかえします

～芸術鑑賞会 10月7日～

本校では、毎年10月に芸術鑑賞会を行っています。今年は日本文化を大切にする心を育むため、昔から変わらずに語られる「落語」を鑑賞することとなりました。落語は5年生の国語の教科書にも取り上げられ、高学年の子ども達は授業でも触れています。落語は噺家の巧みな話術によって、お話を聞いて楽しむ芸術です。噺家はたった1人で何人もの人間やたくさんの情景を表現し、聞いている方はあたかもその時代にタイムスリップしたような感覚に陥ります。

当日は林家木久蔵さんが来てくださり、子ども達が親しみやすい演目を楽しく披露して下さるそうです。木久蔵さんは、笑点でもおなじみ林家木久扇さんの息子さんであり、木久蔵さんのお姉様が本校の卒業生というご縁があります。芸術の秋を満喫できる1日にしたいと思います。



林家木久蔵

昭和50年9月29日
東京都で生まれる。
平成19年9月に二代
林家木久蔵を襲名する。